



Risk Flash No.133 (Vol.4 No.23)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

●シリーズ：「環境と経済」第1回 藤栄剛	Page 1
●研究紹介：石井利江子	Page 2
●リスク研究センター通信	Page 3

環境と経済①

黄砂、生態移民と牧畜民の暮らし

環境総合研究センター准教授 ふじえ たけし 藤栄剛

毎年、春になると飛来する黄砂は、今では季節の風物詩となりつつあります。黄砂は中国大陸、特に黄土高原、タクラマカン砂漠やゴビ砂漠の砂塵が大気中に巻き上げられて、偏西風などとともに運ばれてくるものとされています。こうして運ばれた黄砂は、身近なところでは、自動車や洗濯物を汚すやっかいものであり、長期的には健康被害をもたらす原因にもなりえます。特に、黄砂の発生源に近い地域での被害は深刻です。



画像1 砂漠化が進む草地

黄砂が発生する背景としては、地球温暖化の進行や過放牧など資源の過剰利用による草地などの急速な砂漠化

があげられています。このため、中国政府は1980年代後半より、地域の生態環境の保全・回復を図るため、居住者の移動や移住による牧畜の定住化を通じて、草地の保全・回復を進める「生態移民政策」を内モンゴル自治区などで実施しています。

生態移民政策については、移住後の牧畜家計の所得構造などが大きく変化する

ことや、移住による生活様式の変化に伴う文化の喪失などの問題点が、これまでの研究で指摘されています。しかし、生態移民政策の前後での牧畜家計の経済構造や社会関係の変化が牧畜経営や草地回復に及ぼす影響については、検討されていません。

そこで、中国内モンゴル自治区において、生態移民を実施した牧畜民の村を対象に、複数年にわたる継続的な家計調査を大学院生と共同で行っています。これまでの調査結果を



画像2 家計調査の様子

基にした分析では、生態移民によって、家畜の飼養方法が大きく変化する中で、牧畜経営の効率性が低下したことや、移住による居住形態の変化によって、牧畜民のネットワークが大きく変化したことなどが、徐々にわかってきました。今後も調査を継続し、データを蓄積することで、生態移民が牧畜家計や草地の保全に与えた影響や経時的な変化を明らかにしたいと考えています。

研究紹介

入札データの実証分析

経済学科准教授 いしりえこ 石井利江子

私は入札データの実証分析をしています。近年は、入札談合が行われていると入札データにどのような傾向が見られるか、といったことを統計的に分析しています。入札談合に限らず、データを分析して人々や企業のイレギュラーな行動を発見するという研究は、経済学の研究としてはオーソドックスではありませんが興味深いものがあります。本稿では有名なものを二つご紹介します。

一つ目は Duggan and Levitt (2002) による、大相撲の八百長を検出した研究です。八百長が日本でニュースになるよりも前に書かれたこの論文では、大相撲の対戦成績のデータを分析し、(1) 7 勝 7 敗で千秋楽に臨む力士 A は、そうでない力士 B に勝つ確率が高いこと、(2) A と B が次回対戦する時には A が負ける確率が高い、という傾向があることなどを発見しました。対戦が繰り返し行われる中で、A がピンチの時には B が A に勝ち星を貸し、次回の対戦でそれを返す、といった共謀が行われていることが、データから示されたのです。

二つ目は Christie and Schultz (1994) による、株式市場のマーケットメイカーの共謀を指摘した論文です。マーケットメイカーとは、あらかじめ定められた株式の銘

柄に対して売呼値及び買呼値を提示する役割を担う証券取引業者です。マーケットメイカーは売呼値や買呼値を 1/8 ドル刻みで選ぶことができ、「スプレッド」と呼ばれる売呼値と買呼値の差がマーケットメイカーの収入となります。

Christie らは、NASDAQ の売呼値と買呼値には、ニューヨーク証券取引所のそれと比べると、1/8 ドルの奇数倍の出現が異常に少ないことに気づきました。様々な対立仮説を検証した結果、著者らはこの現象を、NASDAQ のマーケットメイカー達がスプレッドを大きくするために行っていた暗黙の共謀の結果だと結論付けています。

いずれの研究も、誰にでも入手可能なデータを用い、不正が無ければ生じるはずのない不自然なパターンを見つけることに成功しています。工夫次第では、目に見えないけれど確かにそこにあるものを、データからうまく洗い出すことが出来るのです。

・ Duggan and Levitt, 2002. “Winning Isn’t Everything: Corruption in Sumo Wrestling,” *American Economic Review*, vol. 92(5)

・ Christie and Schultz, 1994. “Why do NASDAQ Market Makers Avoid Odd - Eighth Quotes?” *Journal of Finance*, vol. 49(5)

リスク研究センター通信

第1回滋賀大スクエア

～学生パワーで彦根・四番町スクエアを盛り上げたい～

滋賀大学社会連携研究センターでは、(株)四番町スクエア、四番町スクエア協同組合と協力して、彦根中心部の四番町スクエアで、「第1回滋賀大スクエア」と称して、これまで大学構内で実施してきた滋賀大マルシェ（環境こだわり農産物直売市）と滋賀大学学生によるアカペラコンサートやパフォーマンスと連動した取組を実施いたします。

開催概要

日 時：平成25年9月21日（土） 10:30～16:00（予定） 【小雨実施】

会 場：彦根・四番町スクエア内広場（彦根市本町1丁目）

イベント：滋賀大街なかマルシェ（環境こだわり農産物直売市）
滋賀大ゼミナール（コンサートや学生パフォーマンス）

詳しくは、 <http://www.shiga-u.ac.jp/2013/09/21/20547/> をご覧ください。

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、金秉基、久保英也、
柴田淳郎、得田雅章、宮西賢次、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月～金 10:00～17:00）
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>